

11月の「どんぐりsカフェ」から 「マイナンバー制度」始動に危惧と期待

11月18日の「どんぐりsカフェ」は、「マイナンバーって何？」と題し、春日井市情報システム課の宮寄英介課長補佐と浜田竜吉主査のお二人を招きマイナンバー制度について解説していただいた＝写真。

この制度は、①国民の利便性向上②行政の効率化③納税や社会保障などの公平化を目的に国民全員に個人番号（マイナンバー）を付す制度。今年1月から税や年金、医療・雇用保険の手続き、災害対策での利用とマイナンバーカードの



交付が始まった。両氏によると、これまでに市内でマイナンバーカードを受け取った人は、8%、約2万5000人とどまっている。当面、活用が予想されるのは、来年夏にも実施を検討されている「子育てワンストップサービス」。マイナンバーカードを使い、自宅のパソコンから妊娠、出産から育児に関わる申請手続きや情報収集がオンラインで一括してできるようになる、という。参加者からは「個人番号は、ゆくゆく運用範囲が拡大し、収入から診療状態など個人情報丸裸にされる危険なものだ」と危惧する意見が出た。逆に「公平な課税のためには資産や所得をきっちり把握する必要がある」と運用に期待する意見もあった。（明賀 雄二）

どんぐりsから

●今月の東部ほっとステーション運営協議会で、年度内に、加盟団体による“合同相談会”を実施することが大筋で了承されました。さまざまな活動団体が連携することで、お互いに補完し合いながら、より効果的な相談会になるのではないかと期待されます。このところ、「どんぐりs」のすまい面接相談件数も伸び悩んでいる時だけに、その状況を打開するきっかけにしたいものです。

●9月に東高森台に開設した「大人のたまり場」（東高森台集会所近く）ですが、春日井市より「介護予防・日常生活支援総合事業に係る住民主体サービス補助金」（立ち上げと運営に要する費用）の認可をいただきました。早速、安全・快適に利用してもらえるように、入り口の手すり工事や、暖房設備等の備品購入に充当しました。まだ、宣伝不足もあってか、利用者は少ないのですが、周辺地域の人たちの協力を得ながら、これまで「どんぐりs」が目指してきた“おせっかい基地”（気軽に集まっておしゃべりができる場）の実現を目指したと考えています。ご支援よろしく
お願いいたします。（藤城 栄一）

12月の「どんぐりsカフェ」

テーマ：「わくわくするセカンドライフ支援」
講師：山崎正信氏（いきいき塾 NPO総主宰）
日時：12月17日（土）、13.30～16.00
会場：東部ほっとステーション
（サンマルシェ南館1F）参加費：無料。

高齢者のすまい&くらし相談

●まずはお電話ください
：080-4540-3553（どんぐりS事務局）
面接相談日時：12月11日（日）、25日（日）
（いずれも13.30～16.00）
会場：東部ほっとステーション

7会場で春日井市が「TALK&CAFE」 市民協働など活発な議論

11月19日（土）、春日井市企画政策課主催の「第6回TALK&CAFE」が東部市民センターで開かれた。第六次総合計画策定のために市民の声を反映させようと、今年の6月から12月まで市内7会場で開催されるものである。当日は約40名弱の市民が参加した。「どんぐりs」からは6名が参加。参加者は、「よいところ」「困っていること」「あったらいいな」の3つのテーマについて話し合い、最後に各班のまとめの発表があった。発表の内「よいところ」「困っていること」は今までの各種アンケートで明らかになった「自然が豊かな事や足の問題」など出尽くした感があった。しかし、「あったらいいな」に関しては、総合計画の根幹をなす「市民参画

私の朝・昼・晩

ハヶ岳名水会

5年前、突然、中学の同級生から「ハヶ岳名水会」への支援依頼の案内が届き、趣旨に賛同し会員になった。23年前、彼女等が発起人となり「何人も平等である」ことを理念に、故郷の北杜市ハヶ岳麓に障がい者支援団体として誕生した。中学時代一度も同じクラスになったことはなく、どんな性格か知らなかったが、長年勤めた教師を辞め私財を投げ打って設立したことを聞き感動を覚えた。入会后、同窓会で話を聞いたり、施設を見たりする中で考え方、生き方に共感し、陰ながら応援している。その彼女が今年8月に第5代目の理事長に就任した。重職を引継いだのは、「今迄、築きあげた知的財産である信頼できる多くの仲間や次代の担い手等の存在を誇りに思い、魅力を感じる」からとのことである。

今や入所者も5百人を超え、ますます頼られる存在となり、また、農と福祉を連動させたり、廃校舎を活動拠点として利用する等、先駆的な取り組みを行っている。「どんぐりs」の会員として、名水会のやり方も参考にし、誰もが参加しやすい活動を増やすことにより各層の担い手が集まり、魅力あふれる住み継ぐまちを作っていきたい。（堀内 泰）

と協働のまちづくり」関係の問題提起や具体的な意見などが寄せられて、新しい動きを垣間見る思いがした。一般市民を対象にした公開イベントでの発言が、施策にどのように活かされるかは、明らかにされていない。市民の声を反映させようとするならば議会と同じレベルで話された事項を公にし、その対応について回答する位の熱意が望まれる。単なるセレモニーで終わらせるにはもったいない。（寺島 靖夫）



ワサビ田（長野県・安曇野） 森 健

総合計画審議会「何か日本一の施策を」、

11月9日（水）、春日井市役所で第六次春日井市総合計画審議会が開催され、「どんぐりs」役員2名が傍聴しました。主題は次期総合計画の構成案についての協議でしたが、企画政策課から、次期総合計画は、できるだけシンプルで、わかりやすいものにするという提案がなされ、審議委員からは概ね賛成との声がありました。また、形容詞を含んだ抽象的な表現ではなく、具体的な内容を示すべきとする意見、「未来に輝くまち」については他の自治体にはない「日本一」という何かを示す必要があるのではないか、子育て政策の充実、地域防災への対応、「市民協働」の概念の明確化とそれを総合計画の中にどういう形で入れ込むか、等々の意見がありました。（藤城 栄一）

12月の「大人のたまり場」

●まずはお電話ください：

080-4540-3553（どんぐりS事務局）

日時：12月14日（水） 13.30～16.00

会場：「いつだって いま」

（高森台6丁目東高森台集会所そば）

参加費：300円